

**アメニティ指向型  
キャンパス内 創・省エネルギー・アイデアコンテスト申請書**

区分 (いずれかを○で囲むこと。)	<input checked="" type="radio"/> アイデアの部 <input type="radio"/> 研究シーズの部
-------------------	---

申請者	所属・職又は学年		ながれ領域・助教授	
	(ふりがな) 氏 名		しばた のりお 柴田 哲男	
課題名 次年度より実施可能な電力消費削減の具体的方略： 予算と休暇と名工大活力のバランス調整				
(注1) 組織	代表者	氏 名	所属・職	役割分担
	構成員			
計画				
<p>先日、千葉縣市原市で観測至上6番目に高い40.2度を記録した。過去最高は、33年7月の山形市の40.8度で、愛知県でも94年に八開村で至上3番目の40.3度を記録している。温暖化に悩む昨今、省エネ対策として、冷房費削減に勝るものはない。以前の勤務先で、エレベーター自粛を実施したが、電力使用量は通常と変わらないという結果に、落胆した。廊下の蛍光灯については3つにつき2つを取り外したが、節約量は微々たるものであった。効果的であったのは、各研究室が冷房費を自己負担する試みだ。エアコン1台に、月数万円以上の冷房費がかかり、6月から9月の冷房費は、各研究室のスペースにもよるが、百万円近くにもなる。自腹で支払うため教官は真剣に節約に励んだが、実際被害を被ったのは学生であった。教授室以外のエアコンの使用禁止が平然と行われるなど、良くも悪くも教官の度量の狭さを露呈した結果となった。さて、7月13日付けで配布された副学長からの省エネ依頼書に添付されていた消費電力グラフから、夏季にこの問題が深刻化するの避けられない。もっとも、昨年までは夏期休暇開始が7月上旬であり、休暇が秋にシフトした今年度は、さらに厳しい状況になることは必死だ。このような経験を生かし、本申請では、冷房費削減法の具体的方法を解説し、首脳陣の皆様には是非、実施することを検討していただきたいとお願いする次第である。</p>				
方法				
<p>学生時代、以下のような方法で本問題に対処していた。8月1日から3週間、一斉に夏期休暇をとるよう指導。教官や事務職員は、関連部署と相談して必ず1週間ずつ休暇を取り、院生は休ませる。少人数で運営することにより、冷房費を削減し、同時期に休暇を取ることで、エアコン稼働を効率化した。図書館は開館時間を短縮し、冷房費を節約。これを参考に名工大では以下のように取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 8月1日から事務官、教官は1週間ずつ休暇をとり、学生は3週間休ませ研究室の冷房費を削減。</li> <li>② 本年度に施した8、9月の大学夏期休暇を、気温の高い7、8月に変更し、冷房費を減する。</li> <li>③ 図書館の開館は、2ヶ月の夏期休暇期間、午前3時間(あるいは午後3時間)のみとする。</li> <li>④ 午後9時以降はエアコン使用を禁止し、効率的に時間内に仕事、研究、勉強を終了するべく務める。</li> <li>⑤ 研究室配属学生に対する省エネ講義を7月に実施し、協力をねがう。</li> </ol> <p>本法は、電力消費削減のみならず、休暇を促すことから名工大の活力である事務官、教官、学生のマンパワーの充電期にもなる。深夜実験の防止は、事故防止に直結する。幹部電力にも喜ばれ、イメージアップにも貢献。附属病院などの施設を持たない本学だからこそ実施できる方策である。</p>				

注1) 組織欄は、「研究シーズの部」のみ記載する。

注2) 大学研究活性化経費への推薦を行う場合は、当該申請書の作成を改めてお願いします。